

青少年育成センターだより

第221号 2026.1.1

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター



0835-25-2922

「お宮の梅のいちはやく咲いて一月一日」（種田山頭火）

新しい年を迎ました。みなさんにとて素晴らしい年になりますように。

読書のすすめ ～あなたのお子さんは、どれくらい読書をしていますか～

これまでも「青少年育成センターだより」で何度か読書についてみなさんと考えてきましたが、ここで改めて読書の大切さについて考えてみましょう。

みなさんのお子さんは、どれくらいの時間読書しておられるのでしょうか。2025年10月26日の毎日新聞に「『読書ゼロ』の子半数超」というタイトルが付いた次のような記事が載っていました。

“読書しない小中高生は半数に上り、約10年で1.5倍に増えている” ベネッセ教育総合研究所が東京大と実施した調査で、こんな実態が明らかになった。代わりにスマートフォンの使用時間は大幅に増え、スマホの時間が長いほど読書時間が短い傾向が見られた。

- 1日に本（電子版を含）を読む時間を聞いたところ、24年の調査では小1～高3の全体で「読書をしない（0分）」が52.7%で、約半数に上った。15年の調査では34.3%で、1.5倍に増えた。
- 小3と小6、中3、高3を対象に実施した語彙力を測定するテストの結果と、読書時間との関連も調べた。小3と小6、中3では、読書時間が長いほど、語彙力が高い傾向があった。
- 調査に関わったベネッセ教育総合研究所の木村治生主席研究員は「デジタル機器は読書時間を侵食する可能性もあれば、それによって知的活動の幅を広げる可能性も持っています。大切なのは、紙かデジタルかを問わず、まとまった文章にじっくり向き合う時間や、新しい世界に触れる機会を意識的に確保することです」とコメントしている。

子どもの時に「怪盗ルパン」や「シャーロック・ホームズの冒険」などの推理、冒険本を読みながらハラハラ、ドキドキして夜も眠れなかったという経験はありませんか。「赤毛のアン」を読まれて、夢を持つ素晴らしさや友情、家族の絆など、本の中でアンが体験することに引き込まれながら読み進めたという経験はありませんか。また、「エジソン」や「ナイチンゲール」、「野口英世」などの伝記本を読まれて感動し、自分も将来、あんな仕事に就きたい、人の役に立つ人間になりたいなどと思われた経験がありませんか。

本を読むことで、実際には会えない人に出会えたり、できない経験が疑似体験できるなど、それまで経験したことがないことや新しい世界に触ることができます。読書活動は他のことに代えがたい活動なのだと思います。

台所の台の上に、「虫」「動物」「科学」「地図」などに関する本が置いてあり、それをなんなく見ているうちに興味を持ち、大人になってその分野の学者になったという人の話をよく聞きます。本との出会いが子どもに興味を待たせたり、人生の方向性を決めたりするきっかけになるかもしれません。子どもにとって興味がありそうな本を子どもの目につく所にそっと置いてみてはどうでしょう。

